



1. 活動日時：2015年4月11日（土） 10:00~15:00
2. 参加者： 13名（現役GS：5名 社友GS：8名）
3. 活動内容
 - ・今回は、フクロウの巣箱の状況を観察した後、竹林の整備を行いました。
 - ・フクロウは、昨年掛けた5個の巣箱の内一つに営巣していますが、昨年とは違う巣箱の為、慎重に観察を続けています。
 - ・竹林は、以前からイノシシが“ヌタ場”としてあちこち掘り返し、大きな穴をあけていましたが、現在は、タケノコを求めて、ありとあらゆる場所を掘り返しています。
 - ・イノシシは、掘ったタケノコをその場で食べますから、掘り跡にはタケノコの皮が散乱していますが、竹林のほぼ全面にその跡が有り、被害が半端でないことが判ります。
 - ・この状態が続くと、古い竹ばかりの荒れた竹林になりますから、今後出てくるタケノコは、竹林の活力源として極力掘らずに残し、枯れた竹や4年生以上の竹（節の色の黒い竹）の除伐を進めることで新陳代謝を図る必要が有ります。
4. 今後の活動について
 - ・今後は、竹林の整備に加え、草刈りにも汗を流します。力仕事になりますが、奮ってご参加ください。

■竹林の整備 倒れた竹、古い竹、細い竹の除伐を進める一方、沢筋のモミジに被さり、生育に害が有る竹を除伐しました。



①：林道のガードレール際の草取り。竹林に入る前の社会奉仕です。
 ②：斜めに生え、早晚倒竹になる竹の除去
 ③：枯れた竹の除伐と細断。



④古い竹の処理。
 以前間伐した際、枝払いせずに積んだ竹が枯れて危険な状態になっています。やはり枝は払わないと後が大変です。反省。
 ⑤SGCが管理している竹林は急な斜面になっていますが、沢筋は特に急で、足元には十分な注意が必要で。

■沢筋のモミジのレスキュー モミジの群落に被さり、日陰を作って生育に害が有る竹を除伐しました。



暗かった環境が・・・ 明るくなりました。

・沢筋に入って、偶然モミジの小さい群落を見つけました。
 ・周囲を細い竹で囲まれ、更に太い竹が樹上に被さり、日差しを遮っていました。8割方除伐しました。
 ・残る2割（黄色の★の竹）は、そのまま切るとモミジの枝を折ることになるため、次回、ロープで牽引して除伐します。

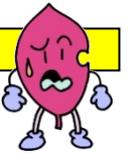
■活動頂いた13名のGSの皆さん。

満開時期は過ぎていますが、ようやく枝垂れ始めた枝垂れ桜をバックに一枚。



■イノシシが暴れまくっています。

今年は、竹林内のほとんどの部分を掘り返しています。



- ・イノシシは、鼻が利きますから、太い細いに関わらず、未だ頭も出していないタケノコを見つけて掘り出し、器用に皮をはいで食べています。
- ・麓の農家が、自衛のために電気柵を付け、罾を仕掛けるなど対策を講じた分、山で食料を求めての事かもしれません。



■春の到来で、様々な生き物が目を覚まし始めました。



ニホントカゲの子供（幼体）。



土から顔を出したタケノコ。イノシシから逃れられるかどうか・・・



シイタケとワラビ。春の息吹です。

- ・林道のガードレール際の草取りをされていて、ニホントカゲの子供（幼体）を見つけました。ニホントカゲは、子供のころは体色が黒か暗褐色で、明るい縦縞があり、尾は、メタリックブルーと大変綺麗ですが、成長すると褐色に変わります。
- ・ウィキペディアによると、食性は動物食で、昆虫類、クモ、甲殻類、ミミズ等を食べ、天敵はネコ、イタチ、アナグマ、ヘビ、モズなどの肉食動物だそうですから、フクロウの棲む森には欠かせないパートナーです。
- ・フクロウの棲む森づくりには、生態系の調査は欠かせませんが、取り立てて調査日を設けて調査しなくても、活動日に見かけた生物を小まめに記録して行くだけで、かなりの資料を得ることが出来ます。
- ・もし判らない種が有れば、捕獲又は採集し、きしわだ自然資料館に送れば、専門の学芸員の方に同定して頂けるという恵まれた環境にありますから、これから夏にかけて、意識的に情報を集めたいと思っています。
- ・これからは、補虫網なども必要かもしれません。

以上